

【子どもの姿】

- 本校児童は、勤勉で、人を思いやる心が育ってきている。また、少人数の特性を生かした異学年集団による取組の充実により、協力や寛容といった態度が育ってきている。
- 学習を振り返る場面では、自分の考えをしっかりと発表できる児童が増えてきているので、今後も、児童同士で話し合ったり、自分の言葉でまとめたりする活動を通して、自分の考えを豊に表現できるよう指導していく。

【本校における土曜授業のねらい】

- 国語、算数の補充的な学習を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 保護者や地域住民等と連携した総合的な学習の時間や生活科を実施することで「ふるさとを愛する態度」や「伝える力・伝え合う力・かかわり合う力」を育てる。

【地域の実状】

- 「傘踊り」や「獅子舞」など地域に根ざした郷土文化を指導してくれる人材がいる。
- 教育活動の推進に当たっては、PTAが組織的に関わるなど、協力体制が整っている。
- 地域の農業関係団体や町づくり協議会（町団体）、様々な個人から、本事業に対する理解と協力を得ている。
- 特別養護老人ホームがあり、児童との交流の機会を設けている。
- 町内の高齢化が進み、学校の教育活動に協力できる人材が減少しつつある。

【目標指標】

- 標準学力テスト（国語・算数）で、90%以上の児童が全国平均を上回る。
- 児童のコミュニケーション能力を高めるために、地域行事等への参加児童の割合を80%以上とする。

交流活動の実際

歌や踊りの発表にとどまることなく、会話や触れ合いを大切に、普段はあまり話すことのない方との交流を意図的に行うことで、人とかかわるよさを学ぶことができるようにしている。



【地域の方々との清掃活動】

体験活動の実際

地域や団体の方を講師とした体験活動でも異年齢の児童が互いに協力する場面を位置付けている。こうしたことで、相手の思いを理解し、折り合いをつけて合意形成を図り、関わり合う力を身に付けることができるようにしている。

【カリキュラムの工夫】

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
4月11日（月） 4月15日（金）	○ 地域学習 ・総合的な学習の時間や生活科において、町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々について学習する。	○ 道徳の時間において、「社会参画」「公共の精神」に関わる内容項目の学習を関連付けて行う。
4月16日（土）	○ クリーン作戦 ・校地内、校地外の施設の清掃を異学年交流の班で分担して行う。町内会、町づくり協議会の方々にも手伝っていただく。	○ 町内会、町づくり協議会との綿密な打合せにより、協力体制を確立する。
5月21日（土）	○ 花苗の植え付け、異学年で花壇に花文字をつくる。班のリーダーを中心に、保護者の協力を得ながら実施する。 ○ 畑の作業 ・異年齢の交流活動班で植え付けを行う。農業団体の方から畝のつくり方や植え方など指導を受けながら実施する。	○ 農業団体、育成会、保護者の協力を得て、事前に耕耘作業を行ったり、苗、種子の購入準備と「人権の花」の活用を行ったりする。
5月23日（月）	○ 体験活動を生活科や理科の「自然に親しむこと」につながるよう関連付けたり、道徳の時間の「自然愛護」や「思いやり、感謝」等の内容項目との関連を図ったりする。	



【地域の方々との畑仕事】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
・全教職員と保護者・地域の方々とねらいを共有
- ◆各種調査やデータ等の分析に基づくカリキュラムの編成
・全国学力・学習状況調査、標準学力テストの結果分析や数値目標の設定
- ◆学習内容の充実を図る人的・物的資源等の活用
・町団体、農業団体、町内会、育成会との連携

豊かな教育環境を提供する土曜授業のモデルカリキュラム（栗山町立継立小学校） 学級数5（うち、特別支援学級1）児童45名

【子どもの姿】

- 保護者や地域住民と積極的に関わり、挨拶や礼儀など、基本的な生活習慣を身に付けている児童が多い。
- 与えられた課題に進んで取り組むことができるが、さらに、自ら課題を見付け、解決の道筋を考える力を伸ばす必要がある。
- 全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、平日、休日のテレビ・DVD等の視聴時間を短くし、半数の児童に家庭学習時間（学年×10分）を定着させる必要がある。
- 運動が好きな児童は多いものの、運動する習慣に課題がみられるため、体育科の授業や休み時間以外でも積極的に運動する習慣を付けさせる必要がある。

【本校における土曜授業のねらい】

地域の教育資源を活用し、子どもたちに多様な学習や体験活動を経験させることを通して、学力向上、体力向上を図るとともに、豊かな人間関係の形成を図る。

【目標指標】

- 学年末アンケートにおける「土曜授業は楽しみ」と回答する児童の割合を80%以上とする。
- 学期末チャレンジテストで各学年全道平均以上にする。

【地域の実状】

- 保護者・地域住民は、学校の教育活動について大変協力的である。
- 町内会役員、元学校評議員、社会教育委員、保護者、学校教職員等で構成する「学校運営協議会」を組織し、学校運営の充実と改善を図っている。
- 特定非営利活動法人や空知総合振興局農業改良普及センター、南部耕地出張所、農家等地域と連携を図った取組を推進している。
- 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業に関わる学校運営部会を設置し、小・中学校及び高等学校の連携を推進している。

スポーツに慣れ親しみ、強い体をつくる土曜授業の実際

スポーツに慣れ親しみ、強い体をつくるためには、体育科でのボール運動・陸上運動・水泳・スキーの授業の充実を図るとともに、課業日にマラソン大会や縄跳び大会を位置付け、子どもたちの体力向上に向けた意欲を喚起した。土曜授業においては、運動会と関連付け、スポーツに慣れ親しむ取組の充実を図っている。



【短距離走のスタート練習】

10月には「秋の親子運動会」を体育館で実施し、親子で一緒に体を動かす（4種目）など、楽しみながら健やかな体づくりを進める活動を行い、効果的な取組を推進している。

【カリキュラムの工夫】

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
5月23日（月） 5月27日（金）	○ 運動会特別日課開始 ・屋外での運動に慣れ親しむ活動 ・体力づくり	○ 学校運営協議会の開催 ・委嘱状の交付と学校経営方針の承認、学校運営に関する協議 ○ 地域スポーツクラブのインストラクターとの事前打合せ
5月28日（土） 5月30日（月） 6月4日（土） 6月5日（日）	○ 陸上教室の実施 ○ 陸上教室の指導内容を踏まえた指導方法の改善 ・フォームの改良、種目ごとの動きの確認 ○ 運動会	○ 教職員による学年別練習の工夫 ○ 自己記録の更新を目指した取組に向けての助言 ○ PTAによる準備と後片付け
7月4日（月） 7月8日（金） 7月9日（土） 7月11日（月） 10月29日（土）	○ 1学期の学習内容の振り返り ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習活動 ○ 補充学習（国・算） ・チャレンジテストの活用 ○ 継続的な朝学習の実施 ○ 夏休み学習会の開催 ○ 秋の親子運動会	○ スクールバス出発までの時間を活用した放課後の学習活動（不定期） ○ 定着度が低かった単元の復習 ○ チャレンジテストを活用した学び直し ○ 漢字・計算等基礎・基本の定着を図るプリント学習の実施 ○ 学校運営協議会による学習会支援 ○ 全種目保護者参加型のプログラム



【チャレンジテストを活用した学び直し】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
・全教職員や保護者・地域の方々のねらいの共有
- ◆保護者や地域の人材の活用
・地域の多様な人材を活かした授業や学校行事の構築
- ◆地域とのつながりを通じた児童の育成
・地域のよさを実感し、地域を愛し、生き生きと学ぶ児童の育成を目指した取組の充実

〔子どもの姿〕

- 明るく朗らかな子どもが多く、学年に関係なく全員が毎日仲良く過ごしており、いじめや不登校等の問題がない。
- 学校評価の保護者アンケートの結果から、保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、よりよい人間関係を構築する力に課題が見られる。
- 学校運営協議会において、「日常的に少人数での活動が多く、集団内での振る舞いや積極性などに課題が見られるので、多くの場面で学校以外の様々な人たちと触れ合う機会をつくりたい。」という声が多く寄せられている。

〔本校における土曜授業のねらい〕

コミュニティ・スクールの機能を十分に生かし、保護者・地域の教育力を活用した体験的な活動の推進により、学校や地域のよさについて理解させるとともに、他者とよりよい人間関係を築く子どもを育成する。

〔目標指標〕

土曜授業アンケートの学校設定項目「学校や地域の特色（良いところ）が分かった」「みんなと協力してとりくむことができた」の質問で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する子ども及び保護者の割合を80%以上にする。

〔地域の実状〕

- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の考え方が地域に広く浸透しており、保護者や地域の方々は学校の事業に対して大変協力的である。
- 少子高齢化が進む過疎地域であり、学校近辺には子どもが少ない上、8割以上の子どもがスクールバスを利用して登下校しており、日常的な子どもの関わりが少ない。
- 自然が豊かで、体験的な活動に取り組める環境が充実している。

「まんでん畑」の実際

土曜授業において、日常の「あぐりの時間」での「まんでん畑」の活動を拡大・充実させて実施している。

「あぐりの時間」は、毎週火曜日の朝に畑に出て、草取りや水やりなどの作物の世話をする活動である。

土曜授業では、保護者や地域の方々にもお手伝いをいただき、日常の活動では難しい作業（畑づくり、苗植えなど）を行っている。

また、「まんでん畑」の活動をとおして、作物についての調べ学習や収穫祭での保護者や地域の方々との会食など、豊かな心を育む教育活動を横断的に実施することができる。



【まんでん畑の活動】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
5月21日（土） ※以後、毎週火曜日の始業前に「あぐりの時間」を設定。	○ 「まんでん畑」の畑づくり ・保護者の手伝いをいただきながら、畑おこしや肥料まき、マルチシート貼り、苗植えなどの作業を実施	○ 学校運営協議会の開催 ・今年度のねらい及び活動予定などを協議・検討 ○ PTA組織の改善 ・併設の中学校の閉校及びCS導入に伴う「PTA実行部」を設置
6月3日（金） 7月22日（金）	○ 「まんでん畑」の苗植え作業 ○ 「まんでん畑」の整備 ・老人会の方々と一緒に、間引きや除草、土寄せなどの知識や方法を学びながら整備する作業を実施	○ 老人会への協力依頼 ・学校運営協議会において、老人会に「まんでん畑」への協力を依頼
9月3日（土）	○ 「親子スポーツ大会」の実施 ○ 「まんでん畑」の収穫作業	○ 保護者との交流
10月20日（木）	○ 「収穫祭」の開催 ・給食調理員に協力をいただき、収穫した野菜で「カレーライス」や「ポテトサラダ」を作り、保護者や老人会の方々と招待して会食を実施 ・作物に関する調べ学習発表会を実施	○ 保護者・老人会の方々と交流 ○ 給食調理員との連携
10月24日（月）	○ 活動の振り返り ・学級毎に活動の成果について交流	○ 学校運営協議会、PTA実行部会の開催 ・今年度の活動の評価



【苗植え作業】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
・学校運営協議会やPTA組織と連携を図って、全教職員はもとより、保護者や地域の方々とねらいを共有
- ◆自然体験・食育との関連
・「まんでん畑」の取組をとおした自然体験と食物の大切さや自然の恵みに触れる食育との関連を図ったカリキュラムを工夫
- ◆学校運営協議会との連携
・「地域ぐるみ」の取組に向け、コミュニティ・スクールの機能を生かした地域の人的・物的資源を効果的かつ計画的に活用

外部人材や地域の教育資源の活用を図る土曜授業のモデルカリキュラム（弟子屈町立和琴小学校） 学級数5（うち、特別支援学級2）児童（生徒）12名

〔子どもの姿〕

- 社会体験の場が少なく、様々な人と関わる機会に乏しいことから、自分の考えを上手に相手に伝えることに苦手意識をもっている児童が多い。
- 保育所から続く人間関係の中で、入学後も大きな変化はなく、認め合う関係ができて一方、自分の意見を主張しすぎて、折り合いがつかない様子も見られる。
- 保護者や地域住民と積極的に関わり、挨拶や礼儀など、基本的な生活習慣を身に付けている児童が多い。

〔本校における土曜授業のねらい〕

外部人材や地域の教育資源を活用した体験活動の充実を図ることにより、児童に地域の一員としての意識を醸成するとともに、自分を表現し他者を理解するコミュニケーション能力の向上を図る。

〔目標指標〕

保護者向けアンケートの「子ども達のコミュニケーション能力を育てることに役立った。」の項目において、肯定的な回答を100%にする。

〔地域の実状〕

- 保護者・地域とも学校の教育活動に理解があり、大変協力的である。
- 自営業（農業、観光業）が多く、不定休のため、休業日の過ごし方は家庭によって様々である。
- 学校と地域が連携を図り、一体となって行っている行事が多い。
- 地域は、故郷を愛し、地域に貢献できる人材の育成を求め、学校が地域のセンター的な役割を担うことを願っている。

合同新体カテストの実際

小規模の複式校であることから、近隣の川湯小学校と合同で活動する機会を設定している。新体カテストを合同で実施することで、児童間の交流が促進されるとともに、児童が競い合ったり、励まし合ったりする姿が見られ、記録の伸びにつながった。

当日の運営がスムーズになるよう、管理職同士、担当者同士の事前打ち合わせを綿密に行うとともに、外部人材活用として、同一校区の中学校教諭の協力を得ながら実施している。



【合同新体カテストでのシャトルラン】

〔カリキュラムの工夫〕

期日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
6月27日（月） 7月1日（金） 7月2日（土）	【合同体カテスト】 ○ 新体カテストの事前指導 ・事前に実施方法や計測方法について指導 ○ 合同新体カテストの実施 ・低、中、高学年のグループに分かれ、実施 ・シャトルランについては全学年が揃った中で実施	○ 新体カテストに係る打合せ ・合同体カテストのねらいを共有し、相手校の担当者との事前打合せ ○ 運営方法の周知 ・お互いの学校で当日の運営方法について周知 ○ グループ編成の工夫 ・他校児童との交流が促進されるようなグループ編成
7月22日（金） 7月23日（土）	【夏のふるさと体験学習】 ○ 夏のふるさと体験学習（学校キャンプ）の実施 ・22日は通常授業 放課後から活動を開始 ・星空観察会の実施（1日目夜） ・カヌー体験教室の実施（2日目午前） ・2日目午前で終了	○ 地域人材（地元ネイチャーガイド）の活用 ・星空観察会（7月22日） ・カヌー体験教室（7月23日）
12月3日（土）	【アイヌ文化体験教室】 ○ アイヌ文化体験教室を実施 ・刺繍、料理、舞踊のプログラムをサイクル化 ・今年度は料理のプログラムを実施 ○ 保護者への参加呼びかけ	○ 地元のアイヌ文化保存協会との連携 ・学校支援地域本部の紹介を受け、講師と打合せ ・複数年の実施を念頭に数種類のプログラムを開発



【夏のふるさと体験学習】

本カリキュラムのポイント

- ◆土曜授業のねらいの共有
・学校経営方針に基づき、全教職員や保護者とねらいを共有
- ◆関係機関との連携
・学校地域支援本部、PTA、自治会等、関係機関との連携を深め、人材の情報を収集
- ◆教育課程への位置付け
・意図的、計画的に体験活動を位置付け、数年先を見通した教育課程の編成

地域の人材や教育資源を活用した土曜授業のモデルカリキュラム（羅臼町立春松小学校） 学級数8（うち、特別支援学級2）児童99名

【子どもの姿】

- 本校の子どもは、保護者アンケート等の結果から、「学習に進んで取り組む」「粘り強く学習に取り組む」割合が少ない傾向にあるなどの課題が見られる。
- 自ら課題を見付け、継続して探究するなど、主体的に取り組む態度にやや課題が見られる。
- 全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査から、「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合が全国より高いなど、規範意識が高い。

【本校における土曜授業のねらい】

総合的な学習の時間において、地域の人材や教育資源を効果的に活用した探究的な学習の充実を図ることにより、子どもが問題の解決に主体的に取り組む態度を育てる。

【目標指標】

- 授業アンケートで、「学習が楽しい」と回答する児童の割合を全学年80%以上にする。
- 自己評価アンケートで、「進んで学習をしている」と回答する児童の割合を全学年70%以上にする。

【地域の実状】

- 世界自然遺産に認定された知床国立公園があり、自然のままに残されている土地が多く存在している。
- 総合的な学習の時間等における地域の人材や教育資源が豊富にある。
- 保護者や地域住民は、学校の教育活動に協力的である。
- 町全体で「幼小中高一貫教育」を推進し、幼小、小中、中高連携の充実を図っている。

地域の人材や教育資源を活用した総合的な学習の時間の実際

総合的な学習の時間のねらいが効果的に達成できるよう、地域の郷土資料館や知床国立公園内における調査・探究活動、北方領土の元島民の講話等とおした北方領土に関する学習、視覚障がいのある音楽家の演奏や講話など、土曜日に地域の人材や教育資源を効果的に活用した授業を展開している。

児童は、様々な活動とおして、学習意欲の向上はもとより、自ら課題について考えたり、調べたりするなど、探究的に問題解決に取り組むようになった。



【地域の方による「ふれあいコンサート」】

【カリキュラムの工夫】

期 日	学習内容の工夫	教育環境の工夫
5月14日(土)	○ 総合的な学習の時間「郷土の歴史・文化に関する学習」 ・縄文文化、続縄文文化、擦文文化期における郷土の人々の暮らしや文化の変化や発展について理解を深めることを目的とした校外学習を実施	○ 地域の教育資源の活用 ・地域の郷土資料館における調査・探究活動 ○ 横断的・総合的な学習の充実 ・社会科の学習との関連
6月4日(土)	○ 総合的な学習の時間「北方領土に関する学習」 ・北方領土の歴史や返還への取組について理解を深めるとともに、北方領土問題について関心を高めることを目的とした授業を実施	○ 地域人材の活用 ・羅臼町内在住の元島民による講話等の実施 ○ 横断的・総合的な学習の充実 ・社会科の学習との関連
9月3日(土)	○ 総合的な学習の時間「ふれあいコンサート in 春松」 ・音楽の楽しさを感じるとともに、前向きに生きることの大切さについて理解を深めることを目的とした授業を実施	○ 地域人材の活用 ・羅臼町在住の視覚障がいのある音楽家による演奏及び講話の実施 ○ 横断的・総合的な学習の充実 ・音楽科の学習との関連
9月24日(土)	○ 総合的な学習の時間「羅臼湖トレッキング」 ・自然愛護の心を育むとともに、そこに生息する野生動物や植生について理解を深めることを目的とした校外学習を実施	○ 地域の教育資源の活用 ・知床国立公園内における調査・探究活動



【元島民の方を講師とした「北方領土に関する学習」】

本カリキュラムのポイント

◆地域人材の活用

- ・地域住民を活用した総合的な学習の時間の充実

◆校外学習の充実

- ・地域の自然や郷土資料館を活用した校外学習の充実

◆授業時数の確保

- ・土曜日に学校行事や総合的な学習の時間等を位置付けたことによる教科の授業時数の確保